

共生舎 2周年記念事業

みんなで語ろう 地域の未来

～子どもをとりまく環境のこと～



【開催レポート】

日 時

平成30年2月10日(土)

13:00～16:30

※17:00～懇親会あり

会 場

共生舎
室蘭市輪西町2丁目3番1号

イベント 概要



H30.2.8 北海道新聞朝刊より

参加者数

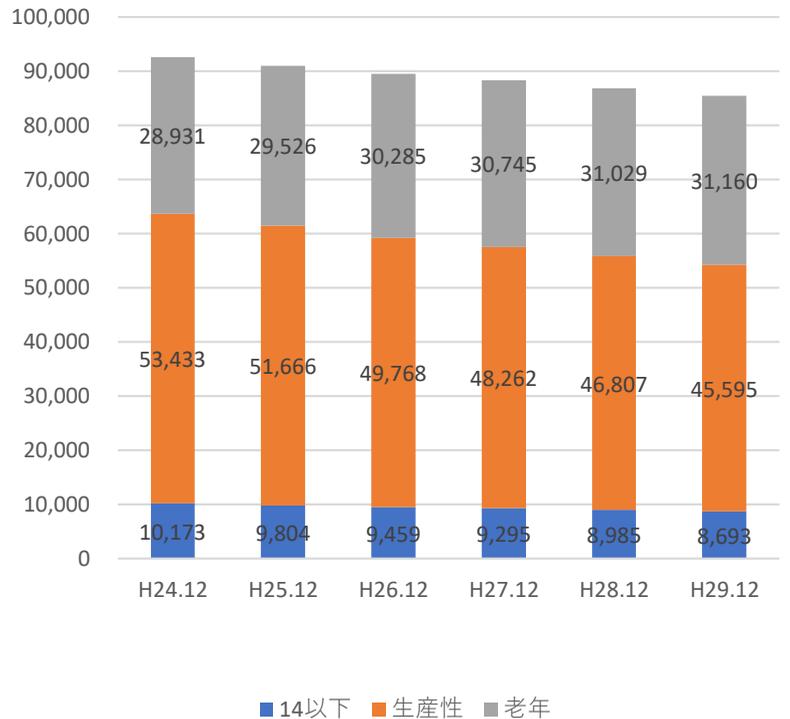
- ・ 座談会 男性 3 名
女性 5 名
計 8 名
- ・ 懇親会 男性 4 名
女性 5 名
計 9 名

※延べ人数・主催者除く

テーマ

- ①人口推移が示すもの
- ②若年層のマインド
- ③学習指導要領の改定

室蘭市の人口推移



テーマ① 人口推移が 示すもの

着眼点

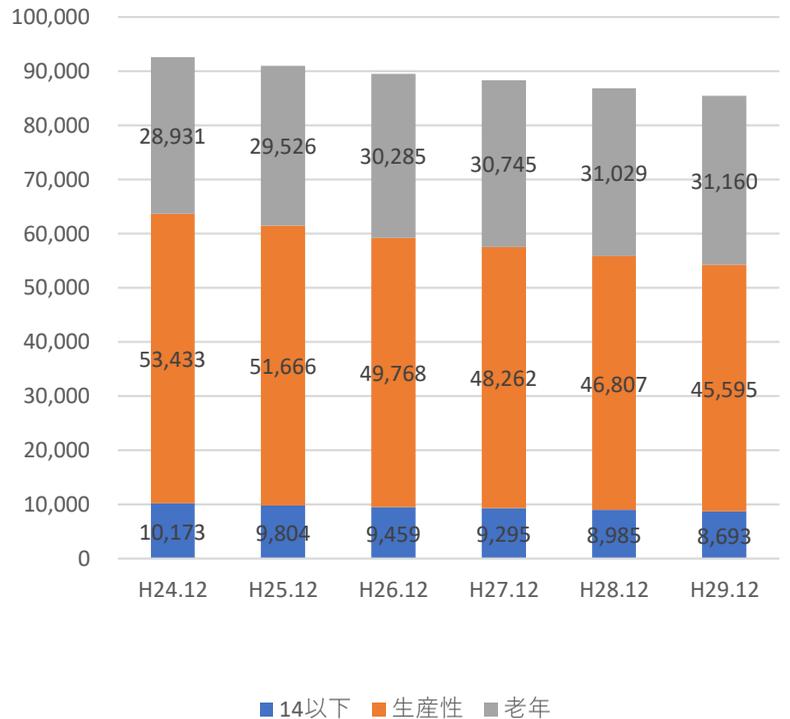
【室蘭市の人口】
 ・ H24→H29 △7,089人
 ・ 「現役世代」（労働生産性人口）の減少が著しい一方、14歳以下では漸減、65歳以上では漸増。

【日本の人口推移予測】
 ・ 2045年には1億人を下回り、2060年には8千万人強。単純な人口総数では戦後と同程度だが、年齢構成は大きく異なる。

意見 Part 1

- ・ 若い人は室蘭に仕事があれば残りたいという人が多いようだ。
- ・ 室蘭を離れる若い人は、この現状をどうとらえて、他の街へ行くのか、確かに気になるところだ。
- ・ 他方、都会の価値観を、地方に持ち込んで、それをそのまま当てはめることは難しいので、地域色を理解することも大切。

室蘭市の人口推移



テーマ① 人口推移が 示すもの

意見 Part 2

- ・下手に家を買うと、仕事がなくなったときに、転居しにくくなるのでは。
- ・移住者から見ると、もうすでに出来上がっている人間関係が強く固まっていて、会話に入りづらいと思える場面がある。
- ⇔懐に入れればとても暖かいのは、いいところ。
- ・観光客対応に慣れている街は、移住者対応にも特別違和感はないようだ。

例えば釧路では、幣舞橋付近で何かを探していそうな人に対して、「どこかお昼でも？」と気さくに声をかける場面を見かける。

・室蘭は親族・同族企業が多く感じ、また、人のうわさや情報が回るスピードがとても速く感じるので、一度仕事がうまくいかなくなると他の企業への再就職も難しくなるようだ。



テーマ② 日本の 若年層の マインド

着眼点

- 【日本の若年層のマインド】
- ・諸外国と比べると、自己肯定感、社会参画への実感は低く、憂鬱感が高い傾向にある（総務省子ども・若者白書より）
- ・インターネット検索で「日本若者」と検索すると、上位7件中6件はネガティブな内容。
（端末の検索履歴が反映されないシークレットモードで検索）
- ・特に、世代間ギャップが浮き彫りになる内容が多い。

意見 Part 1

- ・このような話題になると「最近の若者は」という話はいつの時代も言われるのかと感じる。
- ・憂鬱感は50代でも感じているようだ。中間層が育たないことや、退職金の懸念などが主な要因では。
→50代以上でも、今の世の中での枠組みの変化に戸惑いを覚えている。



テーマ② 日本の 若年層の マインド

意見 Part 2

・では、30代から見ると？
→出る杭は打たれるし、異なる考え方を示しても既存の枠組み前提で片づけられるので、社会的議論に対してエネルギーを使うよりは、自分の目の前のことに平常心で向き合えることのほうが大事に思えるかもしれない。
・「古き良き時代」はお互いにフォローしあうムードがあったのに、今は全くない。

<とはいっても...>

・世代間コミュニケーションの難しさ。例えば「知らない大人についていたらダメ」と言われて育った子が、近所の住民とのあいさつの中で、「知らない人」ではなくなった頃に、近所の住民に略取される事例があったり、年長者の好意を押しつけがましいと捉えられたり。

1. 今回の改訂の基本的な考え方

- 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視。
- 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成。
- 先行する特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成。

2. 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

「何ができるようになるか」を明確化

知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理。

(例)中学校理科：①生物の体のつくりと働き、生命の連続性などについて理解させるとともに、②観察、実験など科学的に探究する活動を通して、生物の多様性に気付くとともに規則性を見いだしたり表現したりする力を養い、③科学的に探究しようとする態度や生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

我が国の教育実践の蓄積に基づく授業改善

我が国のこれまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化により、子供たちの知識の理解の質の向上を図り、これからの時代に求められる資質・能力を育んでいくことが重要。
小・中学校においては、これまでと全く異なる指導方法を導入しなければならないと浮足立つ必要はなく、これまでの教育実践の蓄積を若手教員にもしっかりと引き継ぎつつ、授業を工夫・改善する必要。

〔語彙を表現に生かす、社会について資料に基づき考える、日常生活の文脈で数学を活用する、観察・実験を通じて科学的に根拠をもって思考する など〕

※ 学校における喫緊の課題に対応するため、義務標準法*の改正による16年ぶりの計画的な定数改善を図るとともに、教員の授業準備時間の確保など新学習指導要領の円滑な実施に向けた指導体制の充実や、運動部活動ガイドラインの策定による業務改善などを一層推進。
*義務標準法：公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律

※ 既に行われている優れた教育実践の教材、指導案などを集約・共有化し、各種研修や授業研究、授業準備での活用のために提供するなどの支援の充実。

3. 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立

○ 教科等の目標や内容を見渡し、特に学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等)や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実する必要。また、「主体的・対話的で深い学び」の充実には単元など数コマ程度の授業のまとまりの中で、習得・活用・探究のバランスを工夫することが重要。

○ そのため、学校全体として、教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立。

テーマ③ 学習指導 要領の改定

着眼点

- 【大きな改正点】
- ・ 「生きる力」の養成
...科目横断、単元毎の授業
進行方法の見直し
- ・ 英語教育早期化
...現在中1で習う内容を、小5～小6に、高1で習う内容を中3に、それぞれ前倒し。
- ・ 小学校の算数で、単位の意味まで踏み込んで指導する。
- ・ 幼稚園／保育所卒業までに「成長してほしい姿」の設定など

意見

- ・ 「成長してほしい姿」は努力目標なのかもしれないが、子どもからすると自分から取捨選択をしていくものなので、押しつけがましくならないか、少し心配。
- ・ 学習レベルに目が行きがちであるが、「みんなちがって、みんないい」の世界観が一番大切になるのではないか。

Q & A あなたは幼少期 どう育てられた？



H30.2.12 室蘭民報朝刊より

参加者の意見から

- ・「親が多忙で、兄弟が多いので、親はあまり干渉しなかった」という意見から、参加者自身の幼少期について質問しました。
- ・回答者全員が「ほぼ放任であった」との回答でした。
- ・しかし、親が共働きだったり多忙だったりしたという要素は、少なからずあったとのことでした。

「放任」とはいえ

- ・「子どものことは100%まではわかってあげられないけど、何かあったら何が何でも守る」という無言のメッセージ。
- 完全に意識を向けていないということはなく、むしろ少し離れたところから見守るというスタンスが、子ども心にも伝わっていた、と皆さんおっしゃっていました。

トークセッション 総括



一切はさみを入れない折紙で
参加者さん渾身の作を寄贈頂きました



3テーマの語り合いから見えてきたこと

- ・この地域出身の若年層（～40歳程度）は、**仕事があればこの地域に定住したいという人が一定数いる。**
- ・他方、**既存の人間関係で固まってしまう傾向**もないわけではなく、**個々人の考え方の違いが、コミュニティや組織、会社とのかかわり方にダイレクトに影響する**場面があることも感じられる。
- ・自己肯定感の低さや憂鬱感とは、自分一人だけではうまくつきあっていけない。最後は自分自身になるとはいつても、**そこに至るまでの思いくらは、もっといろんな人たちと共有されてもよいのではない**か。
- ・「あなたは私と違ってよい」「私と違うあなたを認める」というメッセージ。価値観が多様化している現代での子育てには欠かせないと思われるが、子育てに限らず、人材育成の場面でもますます必要になってくるのではないか。
- ・他人やものごとを、**自分の価値観に無理やりあてはめようとしていませんか？見守る心とその距離感が大切ではないでしょうか。**

あとかき

将 来を担う世代をテーマにしたトークセッションも3回目を迎えました。回を重ねるごとに課題とその解決へのアプローチが、次第に明確になってきているように感じます。この地域に特化した現象も存在しますが、それでも人口減少や、世相のパラダイムシフトの速さの影響を受けるのは、他の地方都市にも起きているように感じます。

当 塾は、いわゆる机上の学びにとどまることなく、さまざまな実践的学習のスタイルを模索し、提案し続け、おかげさまで3年目を迎えることができました。ひとえに皆様のご厚情の賜物でございます。ありがとうございます。

3 年目の今年は、このトークセッションの締めとなった「違いを認め合う」という、当塾の商号にもございます「共生」の想いを再確認し、世相・地域・人の心にアンテナを高く張り、それぞれの持ち味をのびのびと活かしたほがらかな教室運営に努める所存でございますので、よろしくお願いいたします。

末 筆となりましたが、ご参加の皆様、報道関係者の皆様、そしてなにより、日頃よりご利用頂いている皆様に、あらためて心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。

平成30年2月22日
共生舎
代表 高橋 慎吾



Thank you for joining and reading.